

第2回 安全性向上有識者会議

議事概要

1. 日 時

2017年5月22日（月） 14:00～16:00

2. 出席者

<委員>

宮川 豊章 座長、高野 研一 座長代行、池田 桂子 委員、指田 朝久 委員、鈴木 和幸 委員、松田 好史 委員（委員は50音順）

3. 議 事

「安全性向上への不断の取組み」実施状況報告（2016年度）

4. 議事概要

（1）「5つの取組み方針」に基づく取組み状況の全体を俯瞰したご意見

- ・「安全性向上への不断の取組み」実施状況（2016年度）を事務局から報告した後、意見をうかがった。2016年度の取組み全般について、委員からは、
 - 全ての取組みについて、主管部署、取組み内容や目標を明確にしており、5カ年の『経営計画チャレンジV 2016-2020』の初年度としての順調なスタートを切ったと認められる。
 - 様々な取組みの効果が現われ、安全に対する意識は、着実に向上している。
 - 『安全性向上3カ年計画』で整備したルールや仕組みに基づいた取組みが、深化した形で行われている。
- などの意見が出された。

（2）「5つの取組み方針」に基づく取組みの今後の実行過程におけるアドバイス

- ・今後の取組みにおける留意事項として、以下のようなアドバイスがあった。
 - （事故の風化防止、安全意識の向上、現場の課題の共有）
 - 安全文化醸成の取組みについては、現場の課題を共有しながら、経営陣が率先して、全ての階層、更にはグループ全体で、色々な改善を重ねながら粘り強く継続していくことが重要である。
 - （構造物のリスクに起因する事象の未然防止、技術開発）
 - 質的、量的にリスクは変化していくということを理解した上で、「全てのリスクを把握しきれていない」という謙虚な気持ちを持ち続け、色々なスタンスからのリスクの洗い出しを継続するとともに、発生したトラブル事象を各部門・各段階で共有し、業務に活かすことが重要である。

- 絶対に起こしてはいけない事象を踏まえ、膨大かつ複雑な点検・診断・補修を効率的に実施していくための最新技術（A I、I o T、非接触センサ、ドローン等）の適用可能性を追求した技術開発が望まれる。

(老朽化の現状やその維持管理についての情報発信)

- 道路構造物の老朽化への対応の必要性や対策状況などを、お客さまの視点でわかりやすく、効果もわかりやすく情報発信していくことが重要である。

(安全を支える人財の育成)

- 高度な技術力を有し、現場を知悉する専門技術者の育成を進めることが重要であり、その場合、褒める文化を含めた評価及び継続教育が重要である。

(着実かつ効率的な事業の推進)

- 点検結果に基づく計画的事業の実施に必要な要員や予算などの経営資源の確保及びその適切な配分がなされているか、継続的に確認していくことが重要である。

以上